

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間:2006年11月上旬から12月中旬までの旬別  
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業:さんま棒受網漁業  
 対象魚群:南下回遊群

#### 1) 道東海域

(1) 来遊量: 11月上旬は、低位水準で減少を続ける。11月中旬には断続的となり、ほぼ終漁となる。

(2) 漁場: 11月上旬～中旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

#### 2) 三陸海域

(1) 来遊量: 11月上旬からゆるやかに減少して中位水準となる。11月下旬以降は低位水準となる。12月中旬には断続的となり、ほぼ終漁となる。

(2) 漁場: 11月上旬は、釜石～金華山沖が主漁場となる。11月中旬以降は、南部が主漁場となる。

#### 3) 常磐海域

(1) 来遊量: 増加を続け11月上旬には中位水準、11月中旬には高位水準となる。11月下旬には減少を始め、12月上旬以降は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月上旬は、常磐北部が主漁場となる。11月中旬には、鹿島灘まで漁場が広がる。12月上旬以降は、鹿島灘が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	断続的			
	漁 場	襟裳岬沖	襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量					
	動向	中位減少	中位減少	低位減少	低位水準	低位水準
	漁 場	釜石～金華山沖	南部	南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	中位増加	高位増加	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	北部	北部～鹿島灘	北部～鹿島灘	鹿島灘	鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(10月中旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月上旬を下回り、中位水準となり、前年をも下回った。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期前半から徐々に減少し、期半にやや増加したものの、その後減少した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南沖～厚岸大黒島南南東沖、釧路南～広尾東南東沖であった。

落石南沖～厚岸大黒島南南東沖の20～60海里付近(表面水温9～13℃)では、ほぼ連日小型船が30～100隻操業。大型船数隻が操業した日もあった。小型船は連日満船となり、大型船は70～80トン程度漁獲した。

釧路南～広尾東南東沖の25～45海里付近(表面水温12～13℃)では、11～12日夜と20日夜に小型船が20～70隻操業。大型船数隻が操業した日もあった。小型船は満船となり、大型船は40～90トン程度漁獲した。

##### (3) 魚体

25～27cm モードの中型魚主体で、小型魚と30cm モードの大型魚が混じる。中型魚以下の魚の混じり具合は、場所や日によって大きく異なり、2～8割程度であった。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月上旬や前年を上回り、高位水準となった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期半ばにかけて増加し、期後半はやや減少した。

##### (2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古～釜石沖と、気仙沼沖であった。

宮古東～釜石東沖の60～70海里付近(表面水温13～14℃)では、11～12日夜に大型船が20～25隻操業。80～100トン程度漁獲する船が多かった。

気仙沼東～東南東沖の45～140海里付近(表面水温14～17℃)では、13日夜以降、連日大型船が20～30隻程度操業した。70～100トン程度漁獲する船が多かった。

##### (3) 魚体

30～31cm モードの大型魚主体。

#### 3) 常磐海域

##### (1) 来遊量

福島県水産試験場いわき丸、千葉県水産総合研究センター房総丸・千葉丸が散見～数トン漁獲したものの、漁船による操業は無く、低位水準であった。